

和歌山病院での実習を終えて



福井 彩香

私たち Q 班は 12 月 18、19 日の 2 日間、和歌山病院での実習をさせていただきました。今回の実習に参加する前は県内唯一の結核病棟のある病院というイメージしかなく、結核についても昔の病気という印象で、正直なところあまり関心をもっていませんでした。しかし、今回の実習では結核などの呼吸器疾患についてはもちろん、胸部レントゲンの読み方や肺の解剖学的な知識についてなど、基本ではありますが丸暗記で済ませてきて、今まで論理立てて考えることのなかった内容について、じっくりと時間をかけた講義をしていただき新鮮でした。

大学の講義では限られた授業時間の中で膨大な内容を学ぶため、一回一回立ち止まって考えるという時間が惜しく、大切なこととはわかっていながらもなかなかそうした学び方はできていませんでした。今回の実習では、今までの大学での勉強法とは 180 度異なる方法で、正解を出すことが目的ではなく、なぜそのように考えたのかという思考の過程に焦点を当てた講義をたくさんしていただきました。実習の中ではレントゲンや肺の解剖といったテーマで考え方のトレーニングを行いましたが、実習を終えてこの考え方をもちと他の所でも応用していけたら、学んだ内容が印象に残りやすくなるだけでなく、なにより学ぶことが楽しくなると感じました。今回は呼吸器内科の実習の一環としての講義でしたが、呼吸器内科に限らず、さまざまな場面で生かすことのできる考え方を学ぶことができました。

最後になりましたが、今回の実習の場を提供していただいた南方院長先生、和歌山病院の先生、職員の皆さま、そして大学病院呼吸器内科の先生方に、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。